

# 止めよう! 変形労働制 39

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.39

全北海道教職員組合

2019. 12. 16

## 道議会で変形労働導入についての審議

# 精神疾患の要因は、業務と業務外が同程度との道教委分析～分析への疑問も



### ●精神疾患による休職の要因は、業務と業務外が同程度～道教委の分析

12月9日の道議会予算特別委員会で、変形労働導入に関わって、教員の病気休職、精神疾患についての分析や、変形労働導入の影響について、菊地葉子議員（日本共産党）が質問しました。

道教委教職員課泉野服務担当課長は「教職員の病気休職者全体に占める精神疾患は6割を超えており、その要因といたしましては、平成29年度における専門医の健康判定審査を受けた対象者からの聞き取りでは、業務上の要因と考えられるもの、業務以外の要因と考えられるものともに5割で、同程度という状況でございます」との分析を示しました。

### ●業務外の要因の大半は「明確なきっかけなし」～総括安全衛生委員会資料より

下の表は、道教委が道立学校総括安全衛生委員会に示した資料です。「業務以外の要因」として分類されているものは「家庭環境」等のほか、「その他」「明確なきっかけなし」も含まれています。これらについて、衛生委員会で道教委は「ストレスがかなり多様な中で本人もなにが原因なのか十分押さえていないというケースがある」と説明しています。

道議会で説明した平成29年度は、その前までの年度と比較して、この「明確なきっかけなし」の割合が突出して多くなっています。「明確なきっかけなし」は、道教委も「ストレスがかなり多様」と説明しており、そこには「業務に関する要因」も多く含まれるものと考えられます。それを「業務以外の要因」に入れ込むことは、増加する精神疾患について行政の責任を軽く扱うことにつながるのではないかと、道教組は、衛生委員会の中で指摘してきました。

道議会で、道教委は、この細目を示すことなく「業務と業務外は同程度」との分析のみを説明しました。しかし「業務以外」

の大半は「明確なきっかけなし」です。

長時間労働が教員に及ぼす影響を、道教委は真摯に受け止め、対策を講じるべきです。少なくとも、変形労働導入について全ての教員の意向を踏まえた対応を取るべきです。

① 健康判定審査を受けた病気休職者の状況（平成25年度～平成29年度）

要因と思われる内容	H25年度			H26年度			H27年度			H28年度			H29年度		
	人数(延)	率(%)	順位												
業務の負担感 *1	26	27.7%	1	26	27.1%	1	15	16.7%	3	12	13.6%	3	13	17.3%	3
生徒指導関係 *2	8	8.5%	7	20	20.8%	2	7	7.8%	7	11	12.5%	5	7	9.3%	5
保護者対応	7	7.4%	8	5	5.2%	8	4	4.4%	3	3	3.4%	1	1	1.3%	
職場の人間関係(上司・同僚)	13	13.8%	4	13	13.5%	4	15	16.7%	3	11	12.5%	5	9	12.0%	4
職場環境	4	4.3%		3	3.1%		1	1.1%		7	8.0%	7	6	8.0%	6
異動	20	21.3%	2	14	14.6%	3	22	24.4%	1	15	17.0%	2	16	21.3%	2
新任期 *3	3	3.2%		2	2.1%		0	0.0%		2	2.3%		0	0.0%	
昇進 *4	0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%		1	1.1%		0	0.0%	
業務外															
家庭環境	20	21.3%	2	12	12.5%	5	10	11.1%	5	12	13.6%	3	4	5.3%	
他疾患による体調不良	9	9.6%	6	7	7.3%	7	6	6.7%	8	7	8.0%	7	5	6.7%	7
内服中止・減量・処方量の影響	5	5.3%		5	5.2%	8	1	1.1%		0	0.0%		0	0.0%	
その他	13	13.8%		9	9.4%		10	11.1%	5	4	4.5%		0	0.0%	
明確なきっかけなし *5	13	13.8%	4	12	12.5%	5	22	24.4%	1	23	26.1%	1	38	50.7%	1
不明	3	3.2%		7	7.3%		0	0.0%		0	0.0%		0	0.0%	
合計(延人数)	144			135			113			108			99		
実人数	94			96			90			88			75		

※ 率(%)は、各要因の該当人数(延)を実人数で除したものと